令和５年度　第１回徳島市総合計画・総合戦略推進委員会
会議録（要旨）

と　き　　令和５年７月３日（月）　午後１時３０分から午後３時４５分まで
ところ　　徳島市役所８階　庁議室
出席者　　委員８人、担当部局職員、事務局

１　開会

２　議題

（委員長）
議題に入る前に、「評価の趣旨や協議施策」について、事務局から説明をお願いしたい。

（事務局）
説明概要
・「総合計画」は、徳島市政を長期的な視点で総合的かつ計画的に推進していくための本市の最上位計画である。
・今後１０年間のまちづくりの指針として、「将来像」に「わくわく実感！ 水都とくしま」を掲げ、その実現に向け、「基本目標」、「政策」、「施策」を定めている。
・委員会は、総合計画の進行管理において、ＰＤＣＡサイクルを適切に運用するため、外部の視点により、本市の取組の評価を行っていただくもの。
・評価対象は、具体的な取組の方向性や指標を定める「施策」を対象としており、各委員には事前に「各施策」の評価を行っていただいたところ。
・２回にわたる会議では、基本目標ごとに、対象となる施策の協議を進めていく。
　第１回委員会では、基本目標１と基本目標４に属する施策を、
　第２回委員会では、基本目標２と基本目標３に属する施策をとりあげる。
・評価対象となる「施策」について、「Ａ」順調に進捗、「Ｂ」概ね順調に進捗、「Ｃ」改善が必要　の３区分で評価いただいている。
・協議施策は、事前評価で評価が分かれている施策及びＣ評価のついた施策。
・事前評価結果は資料３のとおり、協議施策は★印が付いたもの。
・協議施策ごとに、順番に協議を行い、委員会としての評価を決定していただく。

（委員長）
評価を担当した委員から、所見などをいただくとともに、徳島市の担当部局から補足説明がある場合は、ご説明いただく。その後、質疑応答・意見交換を行って、協議施策について評価を統一したい。一施策ごとにこの流れで、協議を行っていくので、よろしくお願いしたい。

２　議題（ ⑴　基本目標１に属する施策の評価について　）

（委員長）

議題⑴に入る前に、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

（事務局）

説明概要

・基本目標１の概要説明

・基本目標１の協議施策について報告

施策１　子ども・子育て支援の充実

施策２　学校教育の充実

施策５　健康づくりの推進

施策６　社会保障の充実

施策７　地域医療の充実

施策１　子ども・子育て支援の充実

（委員）

子ども達の保育・教育は施設整備が整うことが大切であるというところにポイントをおいて評価を行った。また、部分的にコロナの影響を受けたところもあるので、そこを勘案しながら、アフターコロナに向けての方向性が見られるかどうかというところも一つのポイントとして、経済面での子育て支援なども含めて進めていく必要があると考えている。

全国的な傾向であるが、少子化の進行が止まらず、人口減少もやむを得ないということになってきている。そのような状況下でも、地域子育て支援拠点や学童保育クラブの数を増加させているなど市の努力が見られ、今後の見通しは明るいと思うのでＡ評価とした。

（委員）

ハード面は整ってきているかと思うが、成果指標に結びついていないことが気になるところである。また、コロナの影響もあるかと思うが、市民満足度が低下していることが気になるので、Ｂ評価とした。

（委員長）

出生数を評価するのは厳しいかと思う。病児保育事業についてコメントされている委員に補足説明をお願いしたい。

（委員）

病児保育の確保量が目標に届いていない。後々、目標に達するかなという感覚はあるが、今回は現状の数値だけで判断してＢ評価としている。

（委員）
当該指標は、徳島東部地域１２市町村で締結した定住自立圏協定に基づくもので、エリア全体の受入可能数と日数から確保量を算定している。確保量は、努力の指標であるが、サービスの充足状況として、利用申込みがあった際に確保量を超過して預けられなかったということはなかったか。

（担当部局）
要望の都度、受け入れることができている。

（委員長）
病児を預けられなくて、就業できなかったという事例はなかったとのことである。委員の評価に変更はないか。

（委員）
先に期待してという意味では、A評価でもよいのではという感覚である。

（委員長）
病児保育に関する成果指標は充足率といったアウトカム指標の方が望ましい。成果指標は一旦設定すると途中で変更しづらいが、病児の受入れ率が１００％を上回らないよう、例えば余裕をみて９０％が確保できているといった値に変えていく必要があるかと思う。
施策１については、A評価に統一してまとめとしたい。

施策２　学校教育の充実

（委員）
進捗状況は、ほぼ横ばいの状態であり、市民満足度も上昇しているので、ＡよりのＢ評価としている。

（委員）
小中学校のイベントに関しては、コロナの影響もあり厳しかったかと思うが、オンラインでの授業に切り換えるなどの努力が見られる。また、市民の満足度よりも小中学生の満足度の方が高くなっており、それだけ実感しているのではないかという感じを受ける。
成果指標は横ばいのものもあるが、コロナの影響がある中、この値であれば今後の見通しは明るいと思うのでA評価とした。

（委員）
施策が進められない理由を全てコロナのせいにしてはいけないが、コロナの影響を受けながらも、様々な工夫をしていると思うので、A評価を支持したい。

（委員長）
　小学校が皆勤賞の表彰をやめたとのニュースがあった。学校に毎日通うという価値観ではなく、例えば、地域のＮＰＯ団体とまちの調査に行く時間を学習時間に入れるなど、少子化が進むにつれて、従来型の教育から個性重視といった方法に教育が変わってきているように感じる。
　成果指標でいうと、「将来の夢や希望を持っている児童・生徒の割合」はよいとして、「学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合」の方は、学校に行くのが楽しいという単一の物差しで図るというのも如何なものかと思うので、次の計画づくりでは、色々なことを加味してもらいたい。
　市立高等学校においては、取組方針「高等学校教育の充実」に掲げるとおり、市高レインボウプラン・高大連携事業などにより、色々な方向性を育ててもらえていると思う。
　評価を統一するに当たり、各委員の評価を改めて確認したい。

（委員）
　一部目標に届いていない成果指標もあるのでＢ評価としているが、コロナの影響下であることを考慮するとＡ評価でもよいと思う。

（委員長）
それでは、施策２については、Ａ評価に統一したいと思う。
他の委員の方々は何か意見はあるか。

「意見なし」

施策５　健康づくりの推進

（委員）
　健康づくりについては、市民が参加するということが大きなポイントになると思うが、コロナの影響により、対面の検診などに関する成果指標は目標値に届かなかったという現状である。
　しかしながら、一部の事業では目標値を上回るなど、市の工夫や努力が見られることや、今後、コロナが落ち着くことで検診等の参加率も向上が見込まれることなどからＢ評価とした。

（委員）
　コロナの影響により、検診の受信者が減るのは致し方ないかと思う。コロナがなければもっとよい値になっていたのではないかと思うのでＡ評価とした。

（委員長）
　この施策の成果指標は、健康保険制度や職場での検診を義務づけている制度などの補完的な要素となるものなので評価が難しい。委員からも意見があったとおり、自分が健康であろうとする意識がどれだけ広まっているかということが重要な要素となる。

その指標の一つに、重点事業「若い世代の健康相談事業」の「若い世代の健康相談実施者数」という値があるが、目標値とは乖離がある。今後、どのように増やしていくのか進捗状況などを教えてもらいたい。

（担当部局）
当該事業については、小・中学校で給食の試食会を行ったりする際、若いうちから血糖を抑えることの大切さや肥満予防に関する啓発を行うという方法がメインとなっている。コロナ禍においては、このような事業が中止されていたが、コロナが５類に移行したこともあるので、これらの機会を活用して、元の水準に戻していきたいと考えている。

（委員長）
市独自の健康相談を強化していくとのことである。大変な事業だと思うが、健康づくり思想の普及などを表す値として、重要であると思うし、同じく重点事業の「健康寿命延伸啓発事業」のような事業の参加者も増やしていってもらいたい。また、参加者に簡単なアンケートをしてもらい、どれくらい意識が高まったかということを割合で示してもらえると成果指標につながっていくので検討してもらいたい。
健康というのは絶対的価値観であり、病気であることを幸せだと思う人はいない。幸福感という観点は、デジタル田園都市国家構想において重視されている項目なので、この施策との関連は深くなるだろう。
評価を統一するに当たり、各委員の評価を改めて確認したい。

（委員）
今後、改善されることは予測できるが、現状の値をみると少し残念なところもあり、判断が難しいので他の委員の意見も聞いて見たい。

（委員）
健康に関しては人それぞれであり、例えば持病のある人でも自分の体のことを考え、それなりに健康だと思うこともあるだろう。難しいところであるが、確信を持って判断できないのであれば、個人的にはやや厳しい方の評価がよいと考えている。

（委員長）
多様な価値観がある中、幸福感を数値化するのは難しいところであるが、次の計画に向けての準備ということで、施策５については、少々厳しくＢ評価で統一する。

施策６　社会保障の充実

（委員）
　支援対象者へのきめ細やかな事業展開として重要なところであるが、コロナの影響により、対面的な実施が困難となり、目標値に届かなかった指標が多くなってしまったのかと思う。また、目標値に近い値の指標についても、実施手法などに色々な課題が残されており、今後、改善が必要なものが多いと判断してＢ評価とした。

（委員）
　成果指標の設定として、「生活困窮者自立支援プラン作成件数」は件数でない方がよいのではないかというような思いもあるが、コロナの影響が大きい中、目標値には届いていないものの、徐々に改善しているように見受けられると思うのでA評価とした。

（委員）
　成果指標「就労指導による保護廃止率」の分母と分子を教えてもらいたい。

（担当部局）
　当該年度において、稼働年齢層で特に働くことの阻害要因がない人のうち、市の就労指導により保護廃止となった人の割合となっている。

（委員長）
　福祉施策の指標としてどう思うか委員の意見を伺いたい。

（委員）
　福祉の専門ではないが、件数よりは比率で示した方がよいと思う。その上で、分母を何にすべきかなど検討することは色々あるかと思うが、取得しやすい値としてこの指標になっているのではないかと思う。

（委員長）
　この施策の目指すべき姿に「地域社会から孤立することなく、安心して健やかに暮らすことができています。また、医療保険制度の健全な運営や社会保障制度の周知・啓発が図られ、誰もが生涯にわたり希望を持って健やかに暮らせるまちとなっています。」となっている。
　これを幸福感という観点から読むと、「貧困や病などの不幸な状況から、周りの支援をうけつつ、自分の個性を発揮できる人が少しでも増えていく」ということが、今後の目標になってくると思う。
　このことを踏まえて考えると、一番目の成果指標である「適切な社会保障制度により生活が支えられていると感じる市民の割合」は全数計測となるので、地方における指標としての意味合いは薄い。それよりも、就労指導によって自立した人が、その後、どのような自己実現をしたかといった指標を設定した方がよいと思う。

（委員）
　委員長の言う幸福感という部分について、就労指導によって保護廃止となった人が、その結果、生活が豊かになった、幸せになったといったことを確認するアンケートなどは行っているか。このような方々が取り残されることがないということが重要ではないかと思うが如何か。

（担当部局）
　アンケートなどは行っていない。

（委員）
　コロナ禍の中、就労支援は大変であると思うが、割合は向上しているように見える。ただ、生活保護をやめて働きだしたから幸福というのではなく、それを通じて自己実現ができたかどうかという指標が重要であると思うので、是非、フォローアップの制度を施策に取り入れるよう検討してもらいたい。

（委員）
　目指すべき姿に向かっているかをこの成果指標で判断するのは難しい。今後、色々と改善してもらいたいという意味でＢ評価なのか、委員長の言うとおり、コロナ禍でも努力が見られるのでＡ評価なのか、評価を決めかねている。

（委員）
　まだ改善点がないと言うわけではないので、今後に期待するという意味合いも含めて、Ｂ評価に変更してもよいと思う。

（委員長）
　委員会の中で改善提案も出たところである。今後、その方向に向かっていただくということで、施策６についてはＢ評価とする。

施策７　地域医療の充実

（委員）
　コロナの影響があると思うが、市民病院の患者満足度が下がっていることが残念である。特に外来の満足度が低く、患者が満足できる医療体制が重要であると感じたところからスタートし、重点事業の目標も３事業が未達成であることから、厳しい評価ではあるが、Ｂに近いＣ評価とした。

（委員）
　成果指標を見ると、目標値に近いか目標値を達成している状態である。外来の患者満足度については、目標値に届いていないものの、前回値よりは改善されているということも考慮して、ＢよりのＡ評価とした。

（担当部局）
　外来の患者満足度については、調査項目が１５項目あり、５段階評価の平均点を算出している。今年度の調査結果としては、全体的に４点となっており、上から２番目の「やや満足」という評価であった。また、昨年度との比較では、全項目において、上回っている状態である。
　なお、前年度に満足度が大幅に低下しているが、その要因としては、コロナの流行による感染症対策により、患者に負担をかけてしまった部分が大きく、コロナの認知度が上がるにつれて、満足度も回復傾向にあるものと考えている。
　また、交通アクセスの面では、駐車場が混雑しないよう、駐車場の増加による対策や警備員による誘導を行っているが、立体駐車場の特性として、どうしても中で渋滞してしまうということがあり、当院としても待ち時間が減少するよう、改善に向けて努力しているところである。

（委員）
　会計業務などの包括業務委託契約の更新年度はいつだったか。

（担当部局）
　令和３年度に契約を変更して、令和４年４月に更新している。

（委員）
　包括業務の委託先が変わると、スタッフが業務に慣れるまでの間、全ての業務で時間がかかり待ち時間も長くなってしまう。大体半年くらいで解消するが、このことも満足度低下の要因かと思われる。

（担当部局）
　駐車場については、天候にも影響されるところがある。

（委員）
　立体駐車場は１階と２階部分は雨でも濡れないが、３階には屋根がない。簡易な屋根がつけられるか調査してもよかったかもしれない。

（担当部局）
　構造上、困難である。

（委員長）

医師や看護師などに大きな異動はなく、医療の質そのものは変わっていない。包括業務の委託先の変更により、病院内での滞留時間が長くなったかと思うし、コロナの影響もあり、そのことをマイナス評価した人が多かったと言えると思う。

患者満足度は低下しているものの、因果関係がはっきりしているので、委託事業者の指導を充実することで、十分改善が見込める。

ただ、施策「地域医療の充実」という観点では、市民病院だけではなく、社会全体を見る指標設定が必要である。成果指標「地域医療期間から市民病院への患者紹介率」については、市民病院のパフォーマンス指標なので、地域の中核病院として果たす役割を示すのには適しているが、地域医療の充実を表す指標ではない。

地域中核病院としての役割を示すことも大事だが、市全域で医療が充実していることを示すことも重要なので、例えば、ふれあい健康館の夜間休日急病診療所を計画に記載し、評価の対象とするなど、指標の追加を検討してもらいたい。

評価のまとめとしては、成果指標は改善傾向にあるが、駐車場問題など、今後、改善すべき課題もあるので、財政当局の支援も得ながら地域医療の充実に努めてもらいたいという期待を込めて、施策７についてはＣ評価のままとする。

２　議題（　⑵　基本目標４に属する施策の評価について　）

（委員長）

議題⑵に入る前に、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

（事務局）

説明概要

・基本目標４の概要説明

・基本目標４の協議施策について報告

施策２９　地域産業の振興

施策３０　商業・サービス業の振興

施策３２　人等が集う求心力の高いまちづくりの推進

施策３３　コンパクトで機能的なまちづくりの推進

施策２９　地域産業の振興

（委員長）

担当部局から何か補足説明はあるか。

（担当部局）
　ご指摘のあったＩＴ関連の支援については、チラシ等を作成し、各事業所等にも周知啓発を行っている。ＥＣ参入支援についても、今後、力を入れていきたいと考えており、今年度はワークショップ等を開催して、重点的に進めていく。

（委員）
　本施策の目指すべき姿に「ＡＩや５Ｇなどの技術革新により、活力ある産業が育成されるとともに、新たなビジネスモデルによるイノベーションの創出が図られ、本紙経済を牽引しています」とあるが、進捗状況を見るとＡＩ関連の支援やＥＣ参入支援が順調とは言えないと思ったので事前評価ではＣ評価としたが、改めて成果指標を確認すると、市民満足度は回復傾向にあり、目標値に近づいているという現状があるので、Ｂ評価に訂正したい。

（委員）
　成果指標について、「付加価値額」など、現状値の古いものがある。全体としては、昨年度より、少し低下しているが、コロナの影響が大きかったのではないかと判断している。昨年度がＢ評価であったことから勘案して、今年度も大きな落ち込みがあるとは考えられないので、前年度に引き続きＢ評価でよいと判断した。

（委員長）
　計画期間中における成果指標の大きな変更は難しいため、次の計画に向けたネットワーク技術などは重点事業の変更で対応しているところであるが、成果指標の途中追加も検討する必要があるかと思う。
　難しいのは、徳島市は中小企業が多く、現状のままの方が効率的な場合もあるというところである。利益よりも導入コストの方が勝ってしまい、ＩＴ化やＤＸしたからといって、活力ある産業につながるという保障がないというのが地方産業の現状である。
　評価を統一するに当たり、委員の評価を改めて確認したい。

（委員）
　中小企業は採用がかなり厳しくなってきているので、特にＡＩ関係については、これから期待したいところである。そのためにも、ＩＴ化は必要であると思うので、ＩＴ導入支援事業は引き続き進めてもらいたいという期待を込めてＢ評価に変更する。

（委員長）
　電子帳簿保存法に対応するようなアプリを紹介するといった費用のかからない支援の仕方もあるので、状況に応じて進めてもらえれば十分かと思う。
　それでは、施策２９についてはＢ評価とする。

施策３０　商業・サービス業の振興

（委員長）
担当部局から何か補足はあるか。

（担当部局）
商店街関係については、中心市街地活性化基本計画も策定しているので、そのことも踏まえて順次、事業を進めていきたいと考えている。

（委員）
３つの成果指標については、いずれも進捗状況が思わしくないところではあるが、コロナ禍の中ではやむを得ないのかなと思っており、重点事業の方で、進捗状況が向上することを期待してＢ評価としている。
成果指標「中央卸売市場における取扱数量」の所見に、「今後においても成果指標が目標値と乖離することが考えられる」と書かれているが、この成果指標を設定している理由を教えてもらいたい。また、当該指標については、卸業者別取扱前年比較表という公表資料があるが、成果指標の値と若干の差異があるので計上の違いなどがあれば教えてもらいたい。
なお、卸業者別取扱前年比較表を見ると、金額ベースでは、令和１年よりも令和４年の方が上回って推移しているので、個人的には、金額と取扱数量の両輪で分析する方がよいのではないかと思う。

（担当部局）
金額も大事だが、天候や取扱数量に応じて変動するので、市場の規模を示す値としては取扱数量が一つの指標となる。卸売市場法においても、中央を名乗ることができるのは、施設の規模がどれくらいかということになるので、指標としては、取扱数量が適当であると考えている。
公表資料との差異については、公表資料は１月から１２月の暦年で集計しており、成果指標の実績値としては、４月から３月の年度で集計しているため若干の違いがある。

（委員）
取扱数量は、市場がどれくらい活発に動いているかという「にぎわい指標」であると思う。

（委員）
商店街をはじめとする商業地のにぎわいづくりについては、成果指標を見ても３指標ともに前回値より減少しており、まだまだ対策が必要であると思う。特に商店街はシャッター街化しており厳しい状況である。
他方、徳島市は移住者が増加しているので、その移住してくる若者を商店街に呼び込むこともできるのではないかと思うので、今後に期待を込めてＣ評価とした。

（委員）
施策３３にも関係するが、中心市街地活性化基本計画は国へ提出しているのか。

（担当部局）
国に提出し、令和４年３月に内閣総理大臣の認定を受けている。

（委員長）
中心市街地の活性化については、国の支援措置も活用しながら、認定基本計画を推進していく段階である。財政当局とも協議しながら、強く進めてもらいたいという期待を込めて、施策３０についてはC評価とする。

施策３２　人等が集う求心力の高いまちづくりの推進

（委員長）
国の計画に移住者数という成果指標があったが、それを市町村の計画に落し込むと、隣まちからの移住者数もカウントしてしまい、経済圏としては、あまり意味のない数値になってしまう。だからと言って、県外からの移住者に限ってしまうとそれもまた意味付けが難しくなるという問題が生じた。
そのことを報告した上で、施策３２について評価いただいたところである。

（委員）
移住支援策が充実した成果が成果指標「移住者数」に現れており、多様な働き方と合わせて、徳島市の魅力が向上していると思う。
また、成果指標「ふるさと納税の寄附金額」についても目標値に達しており、金額的には少ないのかもしれないが、現状に満足せず、もっと頑張ってもらいたいという期待を込めて、事前評価はB評価としていたが、移住者数の増加は目覚ましい成果だと思うのでA評価に変更させてもらいたい。

（担当部局）
成果指標「移住者数」については、県外からの移住者数の累計としている。また、徳島の魅力発信ということで、ふるさとワーキングホリデーを今年も開催予定であり、藍染めなど、徳島市の特色を生かしながら、今後も移住施策を進めていきたいと考えている。

（委員）
成果指標「２０歳から４９歳までの転入超過数」については、目標値を下回っているが、人口減少が続いている地方都市においてはやむを得ない事情かと思う。
一方で、成果指標「移住者数」や「ふるさと納税の寄付金額」については、大きく伸びており、A評価でよいと思っている。
ふるさと納税の返礼品の拡充状況などが分かれば追加で説明してもらいたい。

（担当部局）
　ふるさと納税返礼品の拡充状況については、令和元年度に２２３件だったものが、令和２年度に３６１件、令和３年度に５９６件、令和４年度に９５２件、令和５年度は、現時点で約１，０８０件と数を増やし続けている。
　また、ふるさと納税の仲介となるウェブサイトの拡充状況については、令和元年度に２サイトだったものが、令和３年度に４サイト、令和４年度から７サイトに拡充しており、このことが近年の寄附金額の増加につながっているものと考えている。

（委員長）
　先程、事前評価の変更もあったので、施策３２についてはA評価としたい。
　他の委員の方々は何か意見はあるか。

　「意見なし」

（委員長）
　自治体間競争という言葉があるが、国があおりすぎた傾向が出てきている。始まりは東日本大震災の時だが、国が自治体に計画をつくらせて、よい計画に復興予算を優先的に配分した結果、計画づくりの能力で予算配分されてしまい、本当に困っている自治体に予算が回っていないという問題が出てきた。
　それと同じように、ふるさと納税も自治体の工夫で寄附を集めなさいとなっており、今度は、一番減収のあった世田谷区長が、基本的な行政サービスさえ提供できない状態になったと発言するに至っている。
　競争の結果、パレート最適という財の配分がなされるのは、経済学の基本だが、それを包括して、困っているところに順番に分配するというのが地方行政である。
　そのため、今度のデジタル田園都市国家構想においては、競争の要素が減っており、地方でお互いの人口を取り合うような文言は削られてきている。
　施策３２についても、今後、「人等が集う求心力の高いまち」にするためには、そこに住んでいる人、生活している人が幸福であり、満足だと思うようなまちに少しずつ変えていくことが必要であると思う。
　重点事業に「徳島東部地域定住自立圏の推進」があるが、これは通勤圏も一体となり経済圏を形成しているというものであり、そういうところでまちが発展していくといったことが重要になってくるのではないかと感じている。

施策３３　コンパクトで機能的なまちづくりの推進

（委員）

施策３０とも関連するが、まちなかの歩行者通行量は減る一方であり、市街地に活気が戻るどころかシャッターが増えているということもあり、現状は厳しい状況であるため、Ｃ評価としているが、コンパクトで機能的なまちづくりを着実にすすめることで、新たなまちがつくれるような気がしている。

（委員長）

中心市街地の評価指標としては、産業面では売上高が重要な値となる。

一方で、行政も含めたまちづくりという観点では、人等が集まっている状態、にぎやかな状態というのが大きな指標となってくる。徳島市は、国から中心市街地活性化基本計画の認定を受けて、国の支援を受けながら、今後、まちづくりをすすめているという状況である。

（委員）

コロナ禍の影響により、達成困難な成果指標が多かったとの印象がある。

一方で、ゴールデンウィーク明けから新型コロナウイルス感染症の５類移行を通じて、人流の回復が見られることから、今後、重点事業の推進や継続により、進捗状況は好転するのではないかと思い、Ｂ評価としている。

重点事業「地域公共交通の活性化」について、私もバスを利用して駅前などに行くことがあるが、上屋を設置しているバス停をあまり見かけない。停留所に上屋を設置したり、高齢者や子ども連れでも使いやすい施設にしているというものがあれば、整備状況や設置率等を教えてもらいたい。

（担当部局）

令和３年度に、県立中央病院・徳島大学病院前の上り線に上屋を設置、令和４年度に南末広町の上り線に上屋付きのベンチを設置した。令和５年度にも、上屋付きのベンチを１か所設置する予定である。

市バス路線内の上屋設置率は約１４％、ベンチの設置率は約２０％となっている。

設置率の目標値等は設けていないが、歩道幅や埋設物等の状況を考慮して、今後も設置できる場所を検討したいと考えている。

（委員）

高齢者施設の近くなど、ニーズに応じた予算配分というのも重要かと思う。

他の自治体でバス関係の手伝いもしているが、循環路線の名称で「右周り」、「左回り」というのは、県外などから来た方にはどこに向かうのかが分からないので止めた方がよい。例えば、地名にして「昭和町先回り」とか「県庁・津田先回り」のような名称にすると土地勘のない方でもある程度分かる。

市民満足度調査の「中心市街地に活気が戻ってきたと感じる市民の割合」については、令和３年度から令和４年度にかけて「６．２」から「８．６」に改善していると思われるがどう見るべきか。

（委員）
少しずつ若い人の店ができたりしているようには思うので、若干の改善傾向ということで、Ｂ評価でもよいと思う。

（委員長）
アンケート誤差と言えなくもないが、少しずつ上昇しており、令和５年度は「９．５」まで上がっている。
学生に中心市街地の活性化に関する話を聞くと、ライブハウスをつくってはどうか、新町川でボートレースをしてはどうか、市立高等学校のボート部に練習してもらいそれをみんなで応援してはどうかなど、いろいろなアイデアが出てくる。
中心市街地は頑張って維持していかなければならない。今後とも積極的に活性化の取組を推進してもらいたいという意味を込めて、施策３３についてはＢ評価とする。
ここで委員の方々に聞きたいが、徳島の車文化を変えていくにはどうすればよいと思うか。

（委員）
バスの利便性向上はもとより、川の駅構想など徳島市の特徴を生かした施策を進めていくと、車からバス、バスから周遊船など、他の交通手段に移行できるのかなと思う。

（委員）
香川県に住んでいる者としての意見だが、終電の時間が早いので、徳島でお酒を飲んだ後、公共交通機関で帰ることができないということが一番の問題かと思う。また、市内に住む同僚からも、午後８時台のバスが最後というのは早すぎるという意見をよく聞く。

（委員長）
公共交通機関や運送業では運転手の確保が大きな問題となっており、運転手の高齢化により廃業するタクシー事業者もいる。公共交通は次から次に課題が出てくるが、これらは、まちづくりに直接影響する非常に重要な問題である。
それでは、本日の協議施策は全て終了したので、事務局にお返しする。

３　閉会